樫尾小学校デジタル資産化プロジェクト

富山県富山市 × 株式会社ＭｏｄｅｌｉｎｇＸ

（登録団体：富山県富山市）

取組概要

富山市と地元のスタートアップ企業の株式会社ＭｏｄｅｌｉｎｇＸが連携し、閉校となる小学校がある地域住民の「学校ロス」を軽減するため、児童や学校、地域の協力を得ながら、インターネット上でいつでもどこでも小学校が見られるようＭａｔｔｅｒｐｏｒｔ社のプラットフォームを活用してＶＲ化しました。

バーチャル樫尾小学校

樫尾小学校の子どもたちとの協働

基本情報

代表地方公共団体等	富山県富山市
代表民間団体等	株式会社ＭｏｄｅｌｉｎｇＸ
カテゴリ	教育プログラム・学力向上 文化・コミュニテイ対策
目指すSDGsゴール	4 9 11 17
事業化までの期間	2023年2月～2023年6月

取組内容

「思い出」を埋め込んでいる子どもたち

地域へのメッセージ募集案内

この取組で解決した課題	**学校は、子どもたちが学ぶ場所だけではなく、防災や地域交流の場となっているなど地域コミュニティの核としての性格も有していることが多いです。こうしたことから、学校統合における地域課題の一つとして、地域住民には学校が無くなることでの物理的・心理的な「喪失感」があります。 閉校にあたって地域住民は「喪失感」を抱え続けるのではなく、地域の未来へ思い巡らせ前向きに進む一方で、学校があったことの記録として、古くは記念碑、近年では写真アルバムや記念誌に懐かしさを綴じ込みながら思い出を縁（よすが）としていました。 今回は、最新技術を用いることで、いつでもどこでも見られるよう学校ロス（喪失感）の軽減に取り組み、新たな形での縁を創り出しました。**
解決に向けた手法	**富山市教育委員会と株式会社ＭｏｄｅｌｉｎｇＸは、令和５年２月に本事業を企画し、統合前の小学校を３Ｄカメラで撮影し、ＶＲ化することで、デジタル資産として遺すこととしました。 このＶＲ化した学校は、Ｍａｔｔｅｒｐｏｒｔ社のプラットフォームを活用しています。このため、ＶＲ化した小学校のなかに、今の子どもたちが撮影した「お気に入り」の写真とメッセージや、地域住民が過去の写真から自らの追憶をメッセージとして残すことができ、世代を超えた思い出づくりをしています。 また、完成したＶＲは市のホームページやＹｏｕＴｕｂｅチャンネル上で公開することで、地域の中でも特定の人だけではなく、地域全体、富山市、果ては日本全国や世界のどこからでもいつでも見られるようにする予定です。**

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	**富山市教育委員会は事業全体の企画立案を行いました。 株式会社ＭｏｄｅｌｉｎｇＸは、小学校の子どもたちと協働し、撮影した写真をメッセージと共に埋め込みました。また３**

	Ｄカメラを用いて、夏休み中に校舎撮影を行っています。このほか、地域住民が寄せたメッセージを埋め込んでいます。
地域関係者との連携方法	閉校する前という「今」の小学校をＶＲ空間上に遺すため、現在小学校に通っている子どもたちが総合的な学習の時間で「何を思い出として遺すのか」を対話しながら考えました。 また、子どもたちが考えた「思い出」を単に事業者が埋め込むのではなく、最新のＩＣＴ技術に触れる機会としてＰＣの操作方法を教え、子どもたち自身でＶＲ化した小学校に埋め込みました。
資金調達方法	学校再編推進支援業務委託（市委託料）
資金調達方法の補足	
事業推進上の課題・工夫	この事業を企画するにあたり、①これまでとは違う形で学校統合における地域の学校ロスを軽減する方法はないか、②現在通学する子どもたちへの思い出づくりができないか、の２つが大きな課題でした。 この２つの課題を解決するために、まず、スタートアップ企業の株式会社Ｍｏｄｅｌｉｎｇ Ｘが自らの事業でＶＲを制作していることを知り、相談したところ、「ＶＲで学校を遺す」ことを提案いただき、学校をデジタル資産化することにたどり着き、新たな形の学校ロス軽減を進めることができました。 次に、単に子どもたちと思い出づくりをするだけでは「学校ロス」の軽減という課題の解決につながらないと考え、子どもたちが自ら考えた思い出を自ら埋め込むこととしました。 特に、学校側と何度も相談を重ね、総合的な学習の時間を活用させていただき、子どもたち同士での発表の機会を設けるなど主体的で対話的な深い学びにもつながるように工夫しました。

担当者のコメント

小学校は、子どもたちにとっては生活の中心となっている場所、地域の方々にとっては思い出の学び舎であり、地域コミュニティの核となっている場所です。みんなに愛される小学校が閉校することによる喪失感＝「学校ロス」の軽減を目指し、子どもたちや地域の方々が思い出を懐かしむための場所づくりをと思って、このプロジェクトをスタートしました。

子どもたちは、授業の中で、タブレット端末で写真を撮ったりメッセージを書いたりして思い出を紡ぐだけでなく、なかなか使う機会のなかったマウスの操作にも挑戦しました。バーチャル樫尾小学校に自分たちが訪れるだけでなく、統合先である八尾小学校の友だちにも見てもらいたいという声もありまし

学校再編推進課　福島主事

た。ゆくゆくは、地域の方々がお子さんやお孫さんにバーチャル樫尾小学校を見せることで、未来の子どもたちが新しい技術に触れる機会をつくっていただけるかもしれません。
　学校統合によりひとつの区切りを迎える小学校の中にも、世代を超えて未来へ広がるエネルギーを感じ、過去を振り返るだけではない、将来にわたって活用できるデジタル資産を作らねばと、奮い立たされています。（担当者：主事　福島　久美子）

問い合わせ先

団体名称	富山県富山市
部局名	教育委員会事務局学校再編推進課
氏名	春田　圭介
電話番号	0764432241
eメールアドレス	gakkousaihen@city.toyama.lg.jp

優良事例応募項目

応募にあたっての記載事項	①地方創生ＳＤＧｓの視点 　少子化・人口減少が続くなか、今後社会へ出ていく子どもたちに必要となる主体性や協調性、批判的思考力などの様々な資質や能力を育成するためには、一定の集団の中で学べる環境づくりは必要と考えております。 　一方、子どもたちの地域への愛着を育むことは、進学や就職で地域を一旦離れたとしても再び戻ってくる種をまいていることと等しいと考えます。本事業の「自らの思い出とともに学校を未来へ遺す取組み」をとおして、田植えや運動会など地域との関わりや自然、文化を振り返り、地域への愛着を育み、さらには、ホームページやＹｏｕＴｕｂｅをとおして様々な人に知ってもらうことで、地域の魅力づくりにも貢献できるのではないかと考えております。 ②ステークホルダーとの連携 　これまでの閉校に関する事業は行政や地域がそれぞれ各自で実施しておりましたが、今回、市内のスタートアップ企業や子どもたちが参画し連携することで、それぞれの持ちうるアイデアや技術を活かした事業が展開できたと考えております。また、地元メディアにも密着型の取材をしてもらい、ステークホルダー同士の連帯感がより一層生まれるよう取り組みました。 ③モデル性・波及性 　本事業は、ＶＲという新しい技術は用いていますが、複雑な

	システムは必要なく、子どもたちや地域住民が参画できる比較的取り組みやすい事業です。また、市事業としてだけではなく、地域の自主事業としても実施することが可能です。